

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

本年度の「全国学力・学習状況調査」の結果について報告いたします。この調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、小学6年生と中学3年生を対象に行われているものです。

内容は「教科(国語、算数・数学)に関する調査」と「生活習慣や学習環境に関する質問紙調査」の2つです。

1. 「教科に関する調査」の結果

a. 国語

全体として県平均および全国平均よりも高い点数を記録しました。特に「話すこと・聞くこと」や「書くこと」のカテゴリで顕著な成果が見られ、コミュニケーション能力の向上が示されました。

国語への関心等の項目では、県平均および全国平均よりも高い点数を記録し、授業への前向きな取組のようすが見られました。

b. 数学

数学では、基本的な計算問題から応用問題まで幅広い範囲で良好な成績を維持しました。特に「図形の理解」と「数式の操作」において高い成績を収め、問題解決能力が高いことが示されました。

数学への関心等の項目では、県平均および全国平均に比べ、大きく高い点数を記録しました。経年分析の結果からも、生徒の関心が大きく変化したことが示されました。

2. 「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」の結果

「基本的な生活習慣や学習習慣(食事・睡眠に関する質問項目)」は全国平均並みからやや下回っている結果でした。一方、学習以外の携帯電話やコンピュータの利用時間については、全国平均と比較して短い傾向が見られ、健康的な生活習慣を送る意識は比較的高いため、生活習慣に関する指導を強化することで改善が期待できます。

「学習への関心」は全国平均をやや下回っています。しかし、授業への参加意欲や学習内容の理解度は比較的高いため、学習の質を高める指導を行うことで、更なる学力向上に繋がる可能性があります。

また、本校の強みはICT機器の活用です。活用に関する回答はどれも全国平均を大幅に上回っており、極めて高い活用率であると言えます。ICT機器を使った勉強が「役に立つ」と思っている生徒も全国平均を大幅に上回っています。生徒はICT機器を活用することで、学習の理解を深めたり、疑問点を解決したり、学習内容を共有したりすることに関して、概ね肯定的な認識を持っていると考えられます。今後は、この強みを活かしながら、家庭学習におけるICT機器の活用を促進することで、生徒の学習意欲の向上、ひいては学力の向上に繋げることを目標とすると効果的だと考えられます。

3. 今後の取り組みについて

本校の学校教育目標を改めてお知らせいたします。

【学校教育目標】

一人一人を生かし 人間性豊かな生徒の育成に努める

【具体目標】

- ・未来を創る力をつけよう
- ・互いに認め合おう
- ・たくましく生きよう

【目指す生徒像】

- ・自ら課題を見つけ、自ら学び、未来を創る学力を身につけた生徒
- ・生命を大切に、互いに認め合える生徒
- ・自らを律し、礼儀正しい生徒
- ・健康でたくましい体力をもった生徒

本校は、生徒一人一人の個性と能力を尊重し、それぞれが自立して問題解決できる力を身につけることを目標としています。また、互いに支え合い、協力し合うコミュニティの形成を目指します。

今後も教育活動の質の向上に努め、生徒、教職員、保護者が一丸となって教育目標の達成を目指します。